

「廣瀬ます」に関する考察 — 日本初の公費負担による学校看護婦の養護活動を通して —

石川フカエ*

A study on Masu Hirose — Examining Healthcare Activities of the First School Nurse employed at the Public Expense —

Fukae ISHIKAWA

緒言

養護教諭は学校教育法にて「児童生徒の養護をつかさどる」と規定されており、一方教諭は「児童生徒の教育をつかさどる」と謳われている。また平成17年度から導入された栄養教諭については「食に関する指導と学校給食の管理」とされている。

では、「養護」とは何を意味するかについてはこれまで多くの議論がなされてきたが、ここでは藤田(2002, 一橋大学)の「学校において健康への配慮や世話(ヘルスケア)をしつつ、それを通して子どもの発達を促し、援助していく営みを養護と規定する」を引用し位置付ける。藤田の定義から「子どもへの健康支援とヘルスケア」を現状の子ども達に当てはめると多種多様な課題が観えてくる。その課題は身体から心身へと広範囲なもので、I型糖尿病、心臓疾患、腎臓疾患等の慢性疾患・心身症、薬物乱用・性の逸脱行為・不登校・特別支援適応児(生徒)・感染症など、大人の健康課題の縮図とも言え、社会現象と同じく健康課題においても、大人と子ども間の線引きし難いボーダレス現象と言える。

このような時代の要請に応じ養護教諭の職務内容の変化が見られたのが平成10年教育職員免許法の一部改正で養護教諭が保健の授業を担当することができるようになった兼職発令である。さらに平成20年、法制定以来50年ぶりに全面改正された教育基本法第一条(教育の目的)に謳われている「心身共に健康な国民の育成」を期しての教育にも、大きく養護教諭は関与していく立場である。また、同年に一部改正された学校保健安全法の解釈を杉浦(2009,

日本健康相談学会誌, 巻頭論文)は「今まで学校医を主役として展開してきた日本の学校衛生が、養護教諭を中心とする学校保健に一大転換したことを示すものである。—中略—学校保健事業の中心は定期の健康診断で学校保健の主役は学校医という概念が全く覆って、学校保健事業の中心は保健指導で学校保健の主役は養護教諭という新しいルールが敷かれたのである」と養護教諭主役時代の到来を説いている。

この法律改正のきっかけとなった平成9年の中央教育審議会の答申の中に、今後「養護教諭の行う健康相談活動がますます重要となっている」との記述がある。今までも教室に適応できない子どもたちが「保健室登校」の名目で養護教諭が指導・養護を行っていた。子どもたちはさまざまストレスから腹痛症状を起し保健室に来た際、養護教諭が子どもの心の平安を取り戻すために折り紙や音楽・自由画を描かせたりしているのに対して、他教師が甘やかしたり遊ばせているなどの非難を浴びせ、授業を休んだとして教科のドリルや漢字・計算問題などをさせるように強要する場面も存在していた。しかし、今回の改正でいじめによる一時避難的保健室入室や、子どもの心身の安定を図る手だての措置は「保健に関する措置」として養護教諭の職務として市民権を得たと言える。

このように養護教諭の職務の変革時だからこそ日本初公費負担の学校看護婦「廣瀬ます」に学びの焦点を絞り養護の原点に立ち返ることが重要であると考え調査研究を行った。資料や文献が十分とは言えないまでも、「廣瀬ます」の業績や歴史的背景など成果が得られたので報告する。

*福岡県立大学看護学部ヘルスプロモーション看護学系
Faculty of Nursing, Fukuoka Prefectural University
連絡先: 〒825-8585 福岡県田川市伊田4395番地
福岡県立大学看護学部ヘルスプロモーション看護学系 石川フカエ
E-mail:ishikawa@fukuoka-pu.ac.jp

研究方法

1. 用語の定義

① 此处でいう「ケアマインド」は、ケア (care) を藤田 (2002, 一橋大学) の「学校において健康への配慮や世話 (ヘルスケア) から、学校における子どもの健康に関する配慮と世話とし、マインド (mind) はケアを考える、ケアを意図すると捉えたところから「子どもたちの健康を支援したい意思」と位置づけた。

② 此处でいう「自己肯定感」とは自分自身が自分のことを「自分は価値ある人間だと判断する気持ち」を指す。

2. 研究対象者

直接面談者 ① 廣瀬寿佳 (廣瀬ますの弟, 助蔵の三男太郎の子息で昭和 27 年生まれ)

② 大西昌子 (廣瀬ますの助手をしていた廣瀬きみから産後の世話をしてもらった人)

③ 村瀬邦子 (岐阜市役所 市民課・岐阜県音楽療法士)

電話での聞き取り者 ① 廣瀬寿男 (廣瀬ますの弟で助蔵の長男, 寿徳の長男)

② 廣瀬ゆみ子 (廣瀬ますの弟, 助蔵の子ども太郎の嫁)

③ 河村孝子 (廣瀬ますの自宅前に住居していた人の子女で現在 60 歳, 岐阜放送局アナウンサー)

④ 廣瀬文子 (廣瀬寿男の妻) ⑤ 河邊ひさ子 (廣瀬ますの助手で甥の妻廣瀬きみ明治 45 年 1 月 24 日生まれ 98 歳の三女で滋賀県在住)

⑥ 中本 (岐阜県立看護大学卒業論文の一部に廣瀬ますの歴史の一部を記述している)

3. 研究材料の収集

「廣瀬ます」自身の書簡や記録、学校日誌等の諸記録は昭和 20 年に岐阜市を襲った大空襲で消失していることは事前調査で判明していた。しかし、廣瀬ますが明治 41 年 12 月～昭和 10 年 4 月まで勤務していた岐阜市京町小学校 (昨年金華小学校との合併で岐阜小学校と平成 20 年に改名) へ調査に行った。他に廣瀬ますの養護活動の根拠となるべき客観的資料を探すために下記の施設・機関へ調査 (面接調査を含む) に行った。

1 調査施設・機関

① 朝日新聞岐阜支社：1988 年 (昭和 63 年) 5 月 13 日 (金) の夕刊。科学技術史散歩『学校看護婦の草分け－保健・養護に献身した廣瀬ます

－』原文はなし

② 岐阜市役所：廣瀬ますの戸籍閲覧

③ 岐阜新聞社：昭和 20 年の岐阜大空襲にて昭和 10 年代以前のデータは焼失したとの回答

④ 岐阜市立図書館：京町小学校閉校記念式典 (平成 20 年 3 月) における吉田岐阜市長の挨拶文が収集できた。その挨拶文に廣瀬ますを讃えていた。

⑤ 岐阜市歴史資料館：『京町小百年』の収集

⑥ 岐阜県立図書館 1988 年 (昭和 63 年) 5 月 13 日 (金) の夕刊。科学技術史散歩『学校看護婦の草分け－保健・養護に献身した廣瀬ます－』の記事をコピーできた。

⑦ 岐阜県立歴史資料館：明治 33 年『学校例規』羽島郡役所の閲覧とデジタルカメラでの撮影許可を受諾され、廣瀬ますの生きた時代背景の理解に役立った。

⑧ 岐阜市保健センター (地域保健課)：廣瀬ます看護婦・助産婦免許についての調査のため訪ねた。

⑨ 岐阜県庁医療整備課：廣瀬ますの看護婦・助産婦免許習得の時期の確認のため訪ねたが、親族者以外は回答してもらえず、廣瀬寿佳氏に依頼した。

⑩ 岐阜市教育委員会：昭和 33 年岐阜教育委員会発行の道徳副読本『ぎふにすだつ心』に関する聞き取り調査

⑪ 岐阜共同墓地：廣瀬ますのが永眠する墓と墓の傍に立つ「廣瀬ます女史碑」へ確認

⑫ 岐阜県立看護大学：先行研究「養護教諭の専門性の確立に向けて」

4. 倫理的配慮

倫理的配慮に関して：研究の目的や意義を廣瀬ますの業績やこの研究に大きな示唆を与えるべき方々、例えば廣瀬ますの直系のご子孫については、まず電話にてアポイントを取り、了解を得て直接説明を行った結果、快く「実名を記載ください」との承諾が得られた。

調査結果

I 廣瀬ますのについての概略

明治 16 (1884) 年 1 月 1 日に廣瀬徳蔵の三女として生まれ戸籍名は「廣瀬ますの」であった。「ます」が「ますの」だった第一発見者は廣瀬寿佳氏で戸籍

の確認に立ち合わせさせていただいた。そこで、これ以降の本文では「ますの」と表現するが、既存の文献引用等においては「ます」と表す。

岐阜市教育委員会発行の道徳副読本（昭和33年）によると「廣瀬ますは9人兄弟の3番目だったが姉2人は幼い時に病死のため7人兄弟の一番姉として幼少期より、よく働いた。小学校へ通い始めた10歳のころ、当時大流行していた天然痘に罹った。その頃は日清戦争（明治27～28年日本と清国との戦争）の直前で衛生思想も低く、予防注射もしなかったため、うち中の者が感染し、特にますは重症で顔面いっぱいにあばたができてしまった。＜母は顔は少しみにくくも、体さえじょうぶになってくれたのだから。＞とかえって健康になったますを見てよろこんでいた。父は蚕の種付けの商売をしていたが、大勢の家族を抱えてかなり苦しい生活をしてきた。こうした中でますは、小学校4年生の課程を終えると翌日から蚕繭から絹糸を作る糸繰りの仕事を習った。

当時絹糸や絹織物は、日本の大切な輸出産業で、糸繰りの仕事は女の内職として、この地方では家毎にからからと糸車の音が聞こえてくる程であった。この仕事は朝暗いうちから蚕を煮て、一日中仕事台にこしかけたまま、熱湯の中の繭から糸をつむぎ出す仕事であった。手先がただれたり、目に見えないような細い糸を繭の中から引き出す仕事は、11歳のますにはずいぶんつらい仕事であった。然し兄弟も多く家計も豊かでないで、母とともに夜遅くまで働いた。

糸繰りの仕事は1年を通してあるのではなく、繭の出盛る頃を中心に働くのであるが、その仕事が途切れた時には、当時流行していた【日本ししゅう】を、本町の廣瀬与吉さんの家で習い始めた。

こうして糸繰りやししゅうの仕事に励むうちにも、ますの心から常に離れなくなったのはみにくい顔のあばたのことであった。」

この文献から、ますが自分の容貌にコンプレックスを抱き他の人の視線を避けて日常生活を送った思春期時代が推察できる。しかし、ますの人に対するケアマインドはこの時期においても育っていた。ここで再度前述の文献に戻る。「与吉の家はまもなく夫婦とも肺結核で倒れてしまった。一緒に仕事をしていた人たちは、この家を見限って四散した。残された幼い2人の子どもたちは面倒を見る人がいなく

なり途方にくれていた。この有様を見たますは、見るにしのびず、仕事が終わると、2人の子どもを自分の家に連れ帰り、しばらくの間めんどうを見た。兄弟が多い上に、他人の子を2人まで連れ帰ったますを母はくかいしょうのないくせに、>と毎日のように小言をいうのであった。その中でもますは僅かな自分の給料をさいて、履物や衣類まで買い与え、夜はこの2人を自分の枕の両方に寝かせ、親身も及ばないめんどうをみた。」

この後ますは看護婦への道を進むのであるが、与吉の遺児たちに懸けたケアマインドと母からの「かいしょうのないくせに」の言葉、さらに痘瘡後のあばた風貌に打ち勝ち、人生の荒海を渡り切る糧として看護婦職を選択したといえるのではないか。

明治33年岐阜県立病院内に看護婦養成所が設立され、明治38年4月看護婦養成所へ入学した。当時のますは「これこそ自分に与えられた仕事」と飛びつく思いで、母の反対を押しきって養成所に入所し「一生を看護婦となって気の毒な人のために尽くしたい」と心に誓ったと記されている。

今回の調査では、看護婦の資格を証明できる根拠は得られなかったが、助産婦免許は明治44年3月23日免許番号1310で名前は「廣瀬ます」と明記され、岐阜県庁医療整備課に残されていた。しかし、この記録は筆者では確認できず、廣瀬寿佳氏にいただいたものである。

明治41年9月に岐阜県立病院から岐阜市立京町小学校にトラホーム治療のため派遣され翌年42年11月から岐阜市の嘱託の身分となり、京町小学校の専任学校看護婦として給与も市から支給されるようになった。以来昭和10年まで実に28年の長きにわたって勤務した。（1985年、東山書房、養護教員の歴史）

廣瀬ますは昭和10年3月当時ボランティアで助産活動していた患者の家で腸チフスに感染し翌月の4月2日午前10時40分、岐阜市立病院にて現職のまま52歳の生涯を閉じたのである。

この時、日本初の公費負担学校看護婦「廣瀬ますの」は多くの足跡を残して永眠した。

Ⅱ 廣瀬ますの学校教育に関する業績録（昭和10年7月帝国学校衛生看護部、文部省構内、学童養護第8巻7号）

1 大正14年 岐阜市教育会表彰 教職員と同等の魂を以て永年勤務の功の表彰

2 昭和3年 岐阜県知事表彰 学校衛生に盡瘁せられた功績（京町小学校小幡治子『故廣瀬ます先生追悼の記』）廣瀬先生が学校へご勤務になった頃の治療室には、トラホーム洗眼用の器具が二～三個あるだけで救急箱はあっても必要な薬品や材料がほんの僅かで、石鹸、タオル、洗面器を初め包帯材料などもご自分が僅かな手当を割いてお求めになってお居られました。併し、先生は、お母様から受けられた固い信仰に生きて居られましたから、之を少しも不幸とせず唯々児童のために寝食を忘れてお盡しくできました。校長先生も学校の自慢の一つとして参観者があれば必ず治療室にご案内になる程でした。大阪市に博覧會がありました時にも、その他の共進會・博覧會等にその實況の写真を出品せられて褒賞賞状を受けられたこともありました。

とはいえ、教室が足りなくなると邪魔扱にされます。或時は廊下の隅、或時には階段の下とゆうような有様だったそうです。－中略－しかし、廣瀬先生の温厚な人格と燃ゆるが如き児童愛の前には何の障害も起こりませんでした。

また先にこの表彰を昭和3年11月帝国学校衛生看護部、文部省構内、養護創刊号にて次のように載せている。

「岐阜市京町小学校学校看護婦廣瀬ます女史の字することは、私達の非常に喜びとするところである。是恐らく学校看護婦として公の表彰を受けられたるは本邦において同女史を以て嚆矢とすべく、この榮譽は、ひとり同女史の為のみでなく、我が国学校看護事業上に一つの大きなセンセーションを投げたもので、誠に歡喜にたえないものである。」

3 昭和9年帝国学校衛生會による学校衛生表彰（昭和9年帝国学校衛生看護部、文部省構内、学童養護第7巻12号）

この学校衛生の表彰標準は概ね以下項に據るとされている。

- 一 学校設備に関する事項
- 二 学校衛生の設備経営
- 三 学校衛生の研究調査
- 四 学校衛生当事者の活動
- 五 学校衛生に関する経費その他の施設

而して、上審査標準中では、特第二項の施設経営の点に最も重心が置かれ下記の項目にて審査

された。

- 1 身体検査の実施及びその利用処置の適切なること
- 2 健康相談及び学校診察の実績をあげること
- 3 学校歯科に関する施設の充実せること
- 4 学童の栄養に注意し学校給食の実績可良なること
- 5 虚弱児童の栄養に留意し養護学級、養護聚落其の他の養護施設完備せること
- 6 精神薄弱児童の養護に留意し促進学級等の施設を有すること
- 7 衛生訓練の指導良好なること
- 8 其の他の保健養護施設に留意せること

等につき実施の状況と経営の成績につき極めて慎重に研究審査され、また学校衛生当事者の活動状況の審査では（1）学校医・学校歯科医の活動（2）学校衛生婦の有無並に其の活動（3）校長・衛生主任・一般教員の学校衛生に対する態度と経営上の努力であった。

4 児童に向けた養護活動の足跡

（1）伝統行事として学校統合の今も継続されてる 6年生夏季鍛錬キャンプ

平成21年6月15日に6年生の保護者宛てに6年生夏季鍛錬キャンプ実行委員より出された夏季鍛錬キャンプ実施に伴う案内文より一部抜粋。

【キャンプの歴史】

「明治41年、全国で最初の保健養護教諭として、廣瀬ます先生が着任される。先生は、およそ26年間にわたり、夏休みには、＜林間学校＞などを開設されるなど、子どもたちの心身の健康に努められた。以来＜まず健康＞が旧京町小学校の合言葉となる。昭和10年、現職中に他界されるまで続いた＜林間学校＞の伝統を引き継ぎ、旧京町小学校PTA創立以来、PTAの主催事業として引き継がれ、岐阜小学校となった現在も、PTAの伝統行事の一つとして本年度に至る」。廣瀬が、子どもの健康増進の為に始めた6年生夏季鍛錬キャンプは、平成21年の夏にも企画されていた。しかも、平成20年度からは京町小学校と金華小学校が統合され岐阜小学校として誕生した翌年にも、京町小学校時代の廣瀬の意思は引き継がれていたのである。

（2）「まず健康」の思想が京町小学校の全児童と教職員・卒業生に醸成される。

京町小学校が1973年に開校100周年を迎えた。そ

の記念号『京町小百年』には各年度の卒業生代表1名が各々小学校時代の思い出として1ページを割いて記載している。その中で昭和12年度卒業生が「まず健康」のタイトルで記述している。校舎壁面と校内の目立つ個所に（図1）「まず健康」の大スローガン



図1

が掲げられていたことと、それらを合言葉に昼休み、放課後等に全員で運動場を走り心身を鍛えたことを回想し、成人した後も「まず健康」をモットーに生きてきたことも併せて書いている。さらに、昭和20年の大空襲で校舎が全焼し「まず健康」の大看板も燃えてしまったことを心底残念に思い、卒業生に資金を募り再建した際にも『後輩にもくまず健康>を残したい』との強い願いがあったとも記載されていた。

(3) 道徳の副読本（教材）として「廣瀬ます」の子どもへの熱き支援が活かされる。

昭和22年新たな日本国憲法の基に教育法及び教



図2

育に関する法令・施行規則が交付された。同時に学習指導要領も刷新され、教育内容に大きな変化が見られた。中でも道徳教育が外されていたが、昭和33年の学習指導要領の改訂でこの年度から再び道徳教育が学校教育の課程に組み入れられた。

岐阜市教育委員会では、新たな道徳教育の副読本を岐阜市で作成した。『ぎふにすだつ心』（図2）昭和33年12月1日発行している。（平和印刷株式会社）

はしがき

一、掲げた14人の伝記については実名を記した方と、全然秘めてしまった方とあります。できるだけ迷惑のかからないよう、編集委員で考慮したためです。

一、本文は委員のうちで分担して原稿を認めました。ただし全体を整えるため多少の加除を後から行っています。

一、本書内容について直接、お世話になったのは下の方々です。

- (本郷小) 浅野 道雄 (方県小) 玉置 修
- (金華小) 鷺見 臣一郎 (七郷小) 恩田 吉郎
- (本郷小) 平田 隆夫 (鷺山小) 加藤 宏安
- (京町小) 桑原 こう (長良小) 武藤 貞雄
- (南部中) 不破 恒二 (明郷中) 伊藤 一正
- (長森中) 永田 昭治 (厚八中) 伊与田 務
- (教育委員会) 吉岡 勳 記してお礼申し上げます。

(順不同、敬称略)

目次

- 一、絵の道にうちこんで
 - ・・・肖像画家 北蓮 蔵・・・ 1
- 二、『走るんだ。とぶんだ』
 - ・・・棒高跳びの沢田文吉・・・ 13
- 三、一生を温室と共にある
 - ・・・温室栽培家・・・ 26
- 四、農事改良につくして
 - ・・・篤農家田中栄助・・・ 37
- 五、長良川と一日くらし
 - ・・・鶺鴒匠の家・・・ 46
- 六、行政の道をたくましく
 - ・・・岐阜市長 松尾国松・・・ 54
- 七、はたらきばち
 - ・・・一商人の妻・・・ 68
- 八、医師の道をひろげて
 - ・・・名誉市民 山田永俊・・・ 78

- 九、いたずらっ子から伸びて
 ・・・・南米開拓の豊田益二・・・ 93
 十、一羽のからす
 ・・・・ある母の少女の日・・・ 105
 十一、走りぬいた気力
 ・・・・十種競技の小椋啓治・・・ 115
 十二、鶏を育てて
 ・・・・ある養鶏農家・・・ 131
 十三、愛のあしあと
 ・・・・学校看護婦廣瀬ます・・・ 149
 十四、文化勲章はかがやく
 ・・・・日本画家川合玉堂・・・ 157

廣瀬ますは昭和10年4月2日に他界している。廣瀬の記事を書いてくれた桑原こうは昭和6年3月31日～昭和36年3月31日の30年間を京町小学校に勤務しており、廣瀬との重なりは昭和6年～10年までの4年間であった。その4年間に2人がどのような繋がりも持っていたのかは不明であるが、桑原教師が捉え観た強烈な廣瀬観を桑原が持っていたと言えよう。なぜなら、この副読本は昭和33年3月に完成しており、取材、編集は前年度の32年に着手したとしても、廣瀬の没後22年が経過しているのも関わらず、桑原が8ページに渡る原稿を書き上げる為に、自分に残る記憶の証明や根拠を調べるエネルギーの膨大さから推察できるからである。

この『愛のあしあと』の中で子どもへの養護活動として特記すべき箇所は（前述のぎふにすだつ心 p 155～156）「最も人々に感銘を与えたものは、愛の救急車を作ったことであった。今のように自動車と呼ばば2～3分できてくれる頃ではない。まずは何とかして、けがした子ども・急病人を家へ或いは病院へ、安静に運んでやる工夫はないものかと、常に心をくわいていた。ある日ますはいそいそと学校の小使さんの部屋に、古ぼけた一台の藤車（乳母車）を運んだ。私費を投じて、古道具屋を探し歩いて、買い求めた車なのである。小使いさんも先生たちも『何にするんだろう。廣瀬先生は子どもも無いのに。』とふしぎにおもっていたが、気にもとめないでいた。それから二三日過ぎ、例の藤車は上部のところは三分の一ほど落とされ、ちょっとした台が、前部にとりつけられ腰かけられるようになって、その上に美しいふとんが一枚のせられていた。これはさすが小使さんと一緒にこつこつ改造した愛の救急車なのであった。それから折々、この救急車にけがをした子

どもを乗せて黙々と送って行く廣瀬の姿があった。」この粗末な愛の救急車は永く学校に保存されていたが、昭和20年7月の空襲の折りに惜しくも燃えてしまった。

こうして全力を子どもの養護のために尽くした功績は実って、学校のいろいろな施設となって現れ、昭和9年11月文部省から栄えある学校表彰を受けたのである。

考 察

本研究では「廣瀬ます」の養護活動の考察を進めてきた。此处で、廣瀬ますのが生きた時代背景の中でも教育的背景を押さえておきたい。

明治5年の学制は欧米の教育制度を模範とした雄大な構想のもとに制定された近代学校制度であった。政府は全国民の就学を目標として小学校の普及発達を図り、地方の学事関係者もその意図に沿って管内の学事の奨励に努めた。しかし当時の日本社会は、このような近代学校制度を受け入れるには大きな距離があった。その距離の一つは学校設立、維持のための経済的な負担が当時の貧困な民衆には大き過ぎたことである。二つめは一般民衆の教育観と学制に示された近代学校観との間に溝があり、教育の新しい考え方や内容に対しても古来の伝統的な思想や社会意識から強い抵抗があった。学制の教育観と民衆の教育観の距離は就学率にも見られ、学制発布の翌年（明治6年）の就学率は男39.9%、女子18.7%の開きがあった。文部省や地方の学校関係者の努力によって年々就学率は増加の傾向を見せたが、都市・地方間の格差は高かった。明治10年の各府県学齢児童就学率は全国平均39.9%に対して、最高の大阪府が67.1%であり、最低が青森県の22.6%であった。高位に属するのは大阪府に続く東京府・長野県・石川県・岐阜県・群馬県でいずれも55%を超えていた。廣瀬が居た岐阜県は就学率の高位に属している。高位に反して低位にあるのは青森県の他に鹿児島県・和歌山県・広島県・秋田県でも30%に満たない状況であった。子女を学齢期間中、学校に学ばせることはまだ一般民衆の通念にはなかった。

当時徴兵制、地租改正などと共に学制の実施もまた明治政府への一連の不信不満となり、各地で農民暴動が起こった。そこで文部省は学制の改革案として「日本教育令」を起草し、趣旨を述べた上奏文と

ともに太政官に提出した。太政官では、この文部省原案を法制局長官であった伊藤博文のもとで審査後大きな修正が加えられ、さらに元老院での審議修正を経て明治12年9月29日、太政官布告第四十号をもって「教育令」として公布された。

学制では八カ年制を原則としたが、教育令では学齢期間中少なくとも16ヶ月就学すべきものとした。公立小学校は八カ年制を原則としたが、四カ年まで短縮できるものとし、毎年四カ月以上授業すべきものとした。そこで、廣瀬ますのが尋常初等教育終了で働きに出たことは特別なことではない。しかし、幼児期に痘瘡に感染しその後遺症で思春期には自己肯定感を持てず、ただただ働いてきたことは文献から推察できる。与吉夫婦の遺児に対するケアマインドは「一生を看護婦となって気の毒な人のために尽くしたい」と明治33年に開校された岐阜県立病院附属看護婦養成所に明治38年当時22歳で入学する動機の一つと言えよう。

学校教育の職場に入ってから廣瀬の養護活動は報告の中で記述しているように、昭和10(1935)年、廣瀬の没後から今日に到るまで74年間の月日が経過しているにも関わらず、図1で示している「まず健康」という概念の育成に大きく影響を及ぼしている。

京町小学校も近年の少子化現象で、平成20年度に近隣の金華小学校と合併し岐阜小学校と改名された。平成20年3月の閉校式において岐阜市長が「京町小学校には、全国に先駆けて養護教諭が配置された学校として、教育史にもその名を残し、初代養護教諭である廣瀬ますの功績は、京町地区の有志により顕彰碑として残されています。またその意思是『まず健康』のスローガンとなり、児童の健康教育やサッカー等のスポーツ活動にも熱心に取り組み続け、輝かしい足跡を残しています」と挨拶の中で述べている。

京町小学校の第22代校長杉山捨一は在職中の昭和48(1973)年に開校100周年記念式典を開催した。その記念誌『京町小百年』の中で前述の岐阜市長と同様の記事を書いている。

廣瀬が他界したわずか3ヶ月後に「廣瀬ます女史碑」の建立に注目し、碑文を全文記述し記録して置く。なぜなら実際の頌徳碑の文字は長年の風雪により判読しにくい状態であると同時に「廣瀬ますの」の人間像を残しておきたいと願うからである。

岐阜市立京町小学校校長 生七位勲六等大野文助撰並書
夫レ人生尊ムヘキハ富力位力将地位力非ス高潔ナル志
操ト献身的行為為ニ存ス故廣瀬ます女史ハ廣瀬徳三氏第
三女トシテ明治一六年一月一日岐阜市柳町ニ生ル資質温
厚慈悲ニ富ミ夙ニ産婆看護婦トシテ博愛慈悲ノ行ヲ遂ケ
ントシ終生嫁セス殆ト全生涯ヲ岐阜市京町小学校看護婦
トシテカヲ児童ノ保健養護ニ論シ頗ル其ノ信愛ヲ受ケ傍
依頼ニ應シテ懇切助産ニ従ヒ 尚学校看護婦会ノ為ニ尽
スコト尠ラススツテ其ノ名声県外ニ及フニ至ル実ニ偉ナ
リト謂フヘシ惜イ哉本年三月偶病ニ罹リ又立タス四月二
日死ス今回京町小学校父兄相議リ頌徳碑ヲ建設セラルニ
当リ予請ニ応シ御経歴ノ叙シ碑文トス
昭和十年七月 岐阜市京町小学校父兄会建之

廣瀬ますのの岐阜市における社会的評価は、昭和63年5月13日の朝日新聞の夕刊にて「科学技術史散歩」のコーナー北村二郎(岐阜農科大学助教授・衛星物理、科学史)が『保健・養護に献身した廣瀬ます』のタイトルで記事を書いている。オランダ海軍の軍医ボンペ(1829-1908)は長崎の幕府海軍伝習所長として安政4(1958)年に来日した。そのボンペは我が国初の西洋式病院、長崎養生所を設立した。そのボンペが『日本海在見聞記』に「眼病が日本には極めて多い、世界のどの国をとっても日本ほど盲目の多いところはない-中略-眼病を引き起こす原因は気候のためというよりむしろ生活習慣にある」と驚いており、明治に入ってもこの状態はあまり改善されなかった。

図3に示すように岐阜県内の児童生徒のトラホーム罹患率が高いものであった。明治43年の岐阜県徴兵検査でもトラホームの感染者が受検者の約27%に達し軍隊や学校ではその対策に苦慮していたと北村は記述している。このような時代背景のもとにトラホーム治療が主な目的で採用された廣瀬であったが、トラホームの治療は勿論のこと生活習慣に対する各家庭への指導・援助は確実なものであった。それらについては、これまでの表彰などを例に挙げ述べてきたところである。

杉浦守邦(1971年、養護訓導の歴史、山形大学名誉教授)は、「開拓者の前途は常に茨の道である。これにくじけず、ひるまず貫き通す人こそ、真に非凡の人といえる。開かれた大道を、後に歩むものは先人の苦勞を深く多としなければならぬ」と述べて

謝 辞

今回、岐阜市における調査では多くの方との善き出会いがあった。さらに調査研究に快く協力していただき心から感謝申し上げます。まず、突然の訪問にも関わらず実名での記述に応じていただいた廣瀬寿佳様・廣瀬寿男様・文子ご夫妻・岐阜県立大学の西田准教授・京町小学校の和田教頭先生・酒井養護教諭・その他、地元で出会った方々や公的機関の方々に心から感謝とお礼を申し上げます。

文 献

- 藤田和也。(2002). 学校の本来的機能としての養護機能. 一橋大学スポーツ科学研「研究年鑑」, 43-51.
- 解説教育六法編集委員. 教育基本法(2007). 第一章. 第一条【教育の目的】. 教育六法, 42, 三省堂
- 杉浦守邦。(2009). 日本健康相談学会誌. Vol.4 No.1. 1-5.
- 文部科学省:(2009). 学制百年史【第一編 第一章 第二節 四】 サイト://www.mext.go.jp/b-menu/hakusho/html/hpbz198101//.2009. 9. 06入手.
- 岐阜市図書館。(1988). 朝日新聞. 1988年5月13日(金). 科学技術史散歩. 保健・養護に献身した廣瀬ます.
- 岐阜市図書館:(2007). 岐阜市長細江茂光. 1 岐阜小学校の閉校に寄せて. 京町小閉校を惜しんで.
- 岐阜県立歴史資料館:(1910). 学校例規. 清潔法施行ニ関シ訓令施行ノ件通牒
- 岐阜県立歴史資料館:(1905). トラホーム予防及治療ニ関スル件通牒
- 岐阜県立歴史資料館:(1905). 県立学校生徒トラホーム患者取調表
- 岐阜県立歴史資料館:(1905). トラホーム治療薬品及価格調(患者百人ニ対スル1ヶ月分ノ見積)
- 岐阜県立歴史資料館:(1911). 学校生と訓育ニ関スル件
- 岐阜県立歴史資料館:(1908). 文部省令第二三号教員検定ニ関スル規程
- 岐阜県立歴史資料館:(1913). 学校児童ノ運動会遠足旅行施行ニ関シ長官ヨリ通牒
- 岐阜県立歴史資料館:(1920). 学校衛生ニ留意スル通牒
- 岐阜県立歴史資料館:(1922). 學生及児童身体検査

規程ニ関スル件

- 佐藤貞次郎(京町小学校第11代校長).(1921). 学校看護婦設置の今昔. 帝國學校 衛生看護部 養護 3-10.
- 文部省体育課:(1928). 学校看護婦の執務指針. 帝國學校衛生看護部 養護創刊号.
- 帝國學校衛生會:(1934). 学校衛生表彰. 帝國學校衛生會. 學童養護 12.
- 文部省体育科:(1938). 最近二三年學校トラホームに関する調査. 帝國學校衛生看護部 學童養護. 8-5. 同じく 8-7.
- 日本学校保健會:(1973). 学校保健百年史. 238-239.
- 岐阜市京町小学校:(1973). 京町小百年. 12-13, 34, 88.
- 杉浦守邦.(1974, 1985). 養護教員の歴史. 18-23. 東山書房.

受付 2009. 9.30

採用 2010. 2.10

